

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901795		
法人名	特定非営利活動法人 ぶどうの木		
事業所名	グループホーム ぶどうの木		
所在地	旭川市忠和7条3丁目4番31号		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901795-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 2 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく過ごせるよう、一人一人の個性に合わせたケアを目指し、コミュニケーションを大切に、職員との会話を楽しんでもらえるように努めている笑顔ある施設です。
また、利用者と職員が同じ空間の中でゆっくりと穏やかに家庭的な生活を送れるよう努めています。今年も施設横にミニ菜園を作り、元農家の利用者から、除草や栽培についてのアドバイスをもらいながら、春の苗植えから秋の収穫までを行い、毎日の楽しみごとを持ってもらう事で、張り合いのある生活を送っていただきました。そして毎日の食事の中で、収穫した野菜を利用者、職員と一緒に食べる事で、喜びを共有できた一年に今年もできました。
今年度入居された写真撮影が趣味の方には、共に自然等の写真を撮りに行き、発表の場の一環として、共用スペースの壁に撮られた写真を掲載していただいています。
健康面に関しては、医療連携先との密な連携により、身体面における変化に早期に気づき対応する事で、病状の悪化防止に繋げ、安定した生活を送ることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームぶどうの木は、忠和地区の住宅街にある定員9名の小規模でアットホームな事業所です。利用者との丁寧な関わりを通じて、家族との信頼関係の構築を行っています。リビングは採光、におい、温度・湿度、換気に配慮し、清潔で心地良い空間となっています。また、2階には広いテラスと談話スペースもあり、ゆとりのある設えとなっています。利用者はスケジュールを決めず、自由に自分のペースを保ちながら穏やかに過ごしています。管理者は、運営推進会議で利用者の状況、地域との協働、事故報告など経過を含め丁寧に説明し、家族などの出席者と話し合いサービスの質の向上に取り組んでいます。また、医療機関との連携体制の構築に努め、重度化や終末期にも備えており利用者や家族の安心につながっています。職員が話し合っ作り上げた理念を掲げ、利用者一人ひとりの暮らし方の希望や力量を活かした場面づくりを積極的に行い、利用者が生きがいを持って自分らしく生活が継続できるよう支援しています。体験入居を行うことで、事業所の雰囲気や支援を実際に受けて納得した上で契約を交わすことができるようにしており、入居前の不安や疑問に答え、安心して事業所での生活を開始できるようにするなど、利用者側に立った取り組みも行っていきます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なかなか地域と関わる機会は少ないが、職員一人一人が理念を掲げ、事業所全体の理念作成に関わり、実践に向け取り組んでいる。	利用者一人ひとりの自主性を尊重し、その人らしくより安心して過ごせるよう、職員が具現化しやすい理念を話し合っています。作成の過程を通じて理念への理解を深め、共有しサービスの向上に努めています。また、理念をパンフレットに記載し、家族や地域住民などにもサービスの基本姿勢を明示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては町内会に加入しており、地域から完全に孤立しないよう取り組んでいる。利用者の高齢化、活動性の低下から地域活動には参加できず、回覧板や定期的な町内清掃などの活動には職員が参加し、交流に努めている。	事業所の役割や機能を伝え、地域に開かれた存在を目指しています。町内会の一員として清掃行事に参加しています。また、町内会の自主防災組織で開催する防災訓練にも参加しています。事業所敷地を地域の活動の場として開放するなど協力関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族へは来所時や電話での連絡など都度、実践や関わりなどを伝達している。また、運営推進会議を通じて地域の方へのグループホームの周知に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービス状況などを伝え、参加している方々から意見を伺い、参考にしている。	家族や地域の理解と協働に向けた機会としており、地域などの参加を得て年6回開催しています。会議で出された意見は真摯に受けとめ、サービスの向上に活かしています。開催の案内は利用者家族に送付しています。参加できなかった場合は報告書を送付し、電話で運営状況などの補足説明もしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所との連携も取れており、良好な関係を築いている。	適切な運営のため、介護高齢課はじめ各部署担当者からも積極的に情報や助言を受け、サービスの向上に努めています。また、事業所所在地は市のハザードマップで水害リスクが懸念されており、SOS忠和版の作成に積極的に協力し、自然災害時の避難方法などについて対応の確立を目指しています。	台風時に氾濫危険情報が出されるなど、水害リスクが高い区域のため避難場所や方法など継続した取り組みが必要な課題が多くあります。事業所内の努力だけでは解決しない課題については行政等にも継続して相談や働きかけが望まれます。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関施錠に関しては利用者の安全確保のためご家族の理解の上での内扉のみ施錠しており、様子を見ながら外出支援、介助を行っている。	利用者の人権を守ることをケアの基本理念としており、身体拘束を行わないことを契約書などに明記しています。職員には、身体拘束廃止に向けた手引きを用意し、身体拘束をしないケアの重要性の確認しています。また、利用者の行動制限や言葉による拘束につながらないように、日々のケアの中でも確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待防止研修会に参加し、内部研修として事業所内にフィードバックしている。職員間でも注意し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一定の知識はあるものの、全体への収支は不十分であるため、今後学ぶ機会を持ち、必要に応じて支援していける体制を作りたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者及び計画作成担当者が同席し、入居または退居に関してご家族への説明や質問に対して不明な点はないか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々意見や要望がないか留意している。ご家族においては来所の際や運営推進会議の場を活かして確認させて頂いており、意見や要望などがあった場合は参考にし、運営に反映させている。	利用者家族に運営推進会議の案内をし出席を勧め、意見交換や運営状況を伝える場面を設けています。また、参加者の都合を勘案し、開催日時を弾力的に運用しています。出席できなかった家族には報告書を送付し、利用者状況、事故報告、職務変更など詳細に報告しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、職員の意見を表出しやすいよう、聞く雰囲気づくりに努めている。出された意見は反映できるよう努力している。	管理者は、変化する利用者状況や個別の要望に沿った支援のため、職員のモチベーション向上やスキルアップを奨励しており、意見や提案など表出しやすい雰囲気づくりに努めています。また、多種の係を分担し、運営にも関わることでサービスの向上に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の状況を把握し、高い意識を持って働ける環境を構築しようと努めている。また、給与面待遇や勤務時間の融通性、労働条件も以前より向上している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月その時々利用者状況に即した会議を行っている。必要な研修、資格取得時などには、それに合わせて勤務を優先的に調整する支援がなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者が地域包括支援センターの主催する「グループホーム交流会」に定期的に参加し、ネットワークづくりを行っている。そこで行われる研修会には職員も参加しており、他事業所との交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いやご家族の要望等は利用開始前に確認し、職員間でも会議の場で確認し合い、日々の関わりの中で本人の話を傾聴し、不安や困りごとに対して安心して頂けるようコミュニケーションを多くし、早期に信頼関係が築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設の見学、体験入居を行い、家族の不安や要望にできるだけ早く対応できるように取り組んでいる。面会時や電話などで連絡を取り合い、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の前段として体験入居を実施している。それを踏まえた上で、ご本人、ご家族、担当ケアマネジャー等を交え、他サービスの利用の検討も行った上で入居を判断している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全体的に活動性が低下しているため、協力し合う事が困難になっているが、生活に寄り添う意識を持ち、個々の能力を理解して共に暮らすという視点で支え合い、信頼関係を築いている。今年も農作物の栽培を通じて、支え合いながら活動できた。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話で近況を報告、時に相談し、ご家族の意向を踏まえ思いを取り入れるようにし、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来られる事は多くなく、活動性低下によりその場所へ行く事も困難だが、来所の際はゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。ご本人が思い出したり忘れる事がないよう思い出や当時の話を聞かせて頂いている。	継続的にボランティアや知人の訪問があり、これからもできるだけ関係を継続できるよう支援する方針を持っています。また、趣味の継続や、利用者の作品の展示など家族の協力も得て、利用者の好きなことや得意なことの発揮の場や想いを尊重した支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で相性を見て席を決めたり、職員が仲介しコミュニケーションが図れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にしたいと考えている。必要時には相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向の把握に努めている。表出が困難な方には、ご家族からの情報や表情、行動等を観察し意向の把握に努め、都度検討している。	日常の関わりを通してや利用者本人や家族の話から、利用者の思いや暮らし方の把握を行っています。また、意思表示が明確でない場合にも、その人らしい生活に結び付けられるよう、利用者の希望や不安を勘案した対応について、職員間で話し合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに加え、家族来訪時などに常に継続して情報収集を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い体調の変化を確認している。また、日々の申し送りや介護記録、連絡ノートを活用し、利用者一人一人の状態を総合的に把握できるよう努めている。必要時には医療連携先と連絡を取り合っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜状態変化時に、ご本人、ご家族、職員と話し合い、必要時には主治医、看護師等に意見を伺いながら、計画を作成している。	家族から介護に対する希望などを聞き取るよう努めています。職員を担当制にし気づきを深め、情報を検討しています。利用者の気持ちに寄り添って自主性を支えるための介護計画を作成しています。また、心身の変化の推移を見て、一人ひとりに合ったケアに取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人記録に日々の状態や様子を記録し、日々のケアやケアプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に一度、面会時に泊まっていられるご家族や、信仰する宗教を大切にもらうため、仏壇を持ち込んでいただくなど、必要に応じて柔軟に対応、支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や地域包括支援センターなどとの連携、また、交通安全運動活動の際には、当ホームの駐車場を拠点として提供するなど、地域資源との協働を行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重し、納得される医療機関への受診を行っている。また、かかりつけ医との関係を築き、状態変化時の報告をすることで、早期の対応を取ることができている。	協力医療機関による、全体往診と利用者ごとの往診があります。また、週1回の訪問看護を受けるなど、医療機関との連携が確立されています。体調や病状に変化が生じた場合は速やかに対応できる体制も築いています。整形外科やその他の受診は管理者が同行し、受診内容を確認しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月の全体往診と個別往診、毎週の看護師訪問に加え24時間オンコール体制であり、常に適切な指示を受けられる状態にある。少しでも利用者状態に気になる事があれば、昼夜を問わず主治医でもある医療連携先と連絡を取り合っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には当該病院関係者との情報交換や相談、連携に努めており、関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と「看取りに関する覚書き」を作成し、当ホームでできること、できないことを個別、及び運営推進会議等で説明し、医療連携機関と共に確認、共有している。	重度化した場合や終末期に利用者と家族を支援するため、「看取りに関する覚書き」を作成し、看取り介護の考え方、視点、具体的方法などを示し説明しています。また、心境や状況の変化に応じて医師、家族、事業所と話し合いを持ち、意向に沿うよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練は行っていないが、今後取り組んでいきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施。町内会に防災組織があり、その一員としての協力体制がある。現在、水害時の避難方法を検討している。	利用者の不安症状などに配慮しながら、消防署の協力を経て避難訓練を行っています。消防署員からの助言を受け、課題となった部分の避難方法を確認しています。また、町内会には自主防災組織があり、訓練に職員が参加して防災意識を高め、連携体制の整備を目指しています。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際には利用者個々の禁忌を職員が共有してプライバシーに配慮し、常に笑顔で対応できるよう言葉遣いや態度に留意している。	その人らしい尊厳ある姿を大切にしています。日々の支援の中では、管理者が中心となって、助言や啓発を行っています。事業所全体で作成に取り組んだ理念を職員一人ひとりが心がけ、職員の言葉かけや接遇は優しく、寄り添う姿勢を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい選択肢を提示し、自己決定ができるよう心掛けている。希望の表出があった際には、記録や申し送りでも共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	場合や状況により結果として職員側の都合となってしまう時もあるが、できるだけ希望に沿えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に自分の好みの服を選んでもらったり、本人の希望がわからない場合は、ご家族と相談して参考にしている。定期的に散髪を行い、ご家族に美容師の方がおり、カット、パーマをかけたりされる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり、彩りや季節感のあるメニュー作りに努めている。また、個人の状態に合わせた食事形態の提供や、できる範囲で食材の下ごしらえや下膳をしてもらっている。	季節感や栄養バランス、目でも楽しんでもらえるよう彩りにも配慮しています。利用者の食べたいものを取り入れ職員が献立を作成しています。変化を付け食事が楽しみになるよう工夫しています。利用者の飲み込む力や嚥む力に合わせた調理方法を工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼、嚥下状態により個々に合わせて刻みやトロミを付けたりして提供している。食事、水分ともに記録し、摂取量が少ない方には補食や摂取時間の変更、栄養補助食の活用などをして、栄養を補えるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じた口腔衛生支援を行っている。残渣が多い方には毎食後の口腔清拭を実施。就寝前は義歯洗浄を行い、週二回洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮して個別に対応している。現在オムツ使用者はいない。リハビリパンツに関してもご家族と検討、選択している。排泄物の状態などにも留意し、個別に記録している。	トイレへの声かけ誘導は、一人ひとりに応じた伝え方や身体的状況に合わせ、羞恥心に配慮しています。利用者の排泄状況を確認し、必要に応じて記録しています。職員はできるだけ薬に頼るのではなく自然な排泄ができるよう工夫しています。また、衛生用品は利用者に向う物を探し出し、家族と相談しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のおやつには果物とヨーグルトを提供し、食事メニューにも排便を促す食材を使用するなど工夫している。必要に応じて医療機関と相談、連携し、適切な薬剤投与も行いながら、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、体調に合わせて実施している。曜日、時間を基本的に決めていますが、本人の希望があれば浴えるよう努めている。急な外出など突発的な入浴日変更にも対応している。	一人ひとりの生活リズムやその時々希望を大切に、また羞恥心には十分配慮して、楽しくゆったりと入浴できるよう支援しています。立位の難しい利用者には、二人で介助スムーズで安全な入浴ができるよう努めています。冬季は事前に浴室を温めるなど、ヒートショック対策も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人その日の体調や気分に沿って安眠、休息を促している。日中も個々に合わせて、適宜静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全ての薬の目的、副作用、用法、用量を全職員が把握できるよう、処方箋綴りをいつでも誰でも閲覧できる場所にある。また、薬の増減で変化があった際には、都度主治医に連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニ菜園での関わりや、好天時の日光浴、散歩や写真撮影などの個人の趣味にも合わせて同行を支援している。嗜好品では喫煙、飴や栄養ドリンク、缶コーヒーなどが楽しみの一つとなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に合わせて散歩や外気浴など行っている。家族による外出や外食の支援もある。	散歩など利用者の体調や環境を整えながら柔軟に支援しています。本人の意欲や役割にも配慮し趣味活動を兼ねた外出の支援を行っています。また、身体状況や認知症の進行、体調を崩すことを考慮して外出を控える場合でも、空気が澱まないよう空気の入れ替えを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方が多く、金銭はあっても使える場面がないのが現状だが、ご家族の要望により所持されている方もいる。預り金は紛失防止のため、ロックのかかる場所で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話や手紙の読み書きが理解できない方が多いが、電話が可能なお方には都度対応している。中には携帯電話を所持されている方もおり、自由に家族と連絡を取られている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節に合わせたタペストリーや写真を飾り付けて居心地良く過ごせるよう工夫している。また、大人の生活空間として幼稚になり過ぎないように配慮している。共有スペースは採光や換気、温度、湿度に配慮しながら清潔に保てるよう心掛けている。	利用者のほとんどが日中は居間で過ごしており、空気の流れや自然光、生活音、におい、手触りなど五感への配慮をしています。また、温度・湿度にも注意しインフルエンザなどの感染症予防に努めています。居間には利用者の作品などが飾られ、和みの場となっています。エアコンを新設し、利用者が適度な距離を保てるようソファなどの配置を工夫しています。落ち着いた環境のもと、思い思いに心地良く過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの各場所にソファや椅子を配置して、その時の気分に合わせてテレビを観たり、畑を見たりして、パーソナルスペースとしてゆっくり過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、希望があれば仏壇なども受け入れている。家族の写真を部屋に飾るなど、今までの生活と変わらない雰囲気の中で生活できるような環境作りを留意している。	自宅の再現を目指し、利用者が入居前の習慣や生活を継続できるよう、テレビ、ラジカセ、仏壇、趣味の物などが持ち込まれています。家具には、収納場所や収納品が分かるようにラベルを貼るなど利用者によりわかりやすく工夫しています。また家族が宿泊できるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じて危険がないよう手すりを使ってもらったり、洗面所の明りを常時点けたり、可能な限り安全に配慮した見守りや介助を行っている。より自立支援に繋がるよう努力していきたい。		